

文学研究科における若手研究者支援プロジェクト

本研究科では、若手研究者の専門性を深化させ、次世代を担う研究者としての自律を促すために、「研究・教育」「社会との連携」「キャリアパス形成」に関する支援を行っている。その成果は、若手研究者の学会発表件数や科研費採択件数の増加、アカデミックポストへの採用人数の増加という実績で現れてきている。今後は、グローバルに活躍する研究者の育成支援体制を充実させ、世界水準の人材育成を目指す。

研究と教育に係わる支援

「共生の人文学」プロジェクト

本研究科では、2005年より大学院生を対象に、旅費支援や校閲費支援を行っている。旅費や校閲にかかる負担を軽減することで研究発表の機会が増え、**院生の研究業績の積み上げ**、さらに**国内外の研究者との情報交換やネットワーク作り**への足がかりとなっている。

○院生旅費支援

大学院生の国際学会・全国学会での研究発表に対する旅費を支援する。さらに資史料調査、フィールドワークについても支援の対象とする。



○校閲費支援

国際学術雑誌・本研究科の英文ジャーナル等への投稿および国際学会・国際研究集会での発表を積極的に支援するために、大学院生に対して投稿原稿や発表原稿の校閲料を支援する。

支援実績 2010～2013年 DC14名、MC3名

日本語添削プログラム

留学生を対象として、論文における**日本語の表現性を高め、研究活動をより活性化**することを目的に、2012年より支援を開始。若手研究者が添削にあたり、そのスキルアップのためにFD研修会を実施し、**キャリアパス形成支援とも連動**している。

支援実績 2012年：21名 2013年：54名 2014年：80名超

「人文学と社会」研究プロジェクト

本プロジェクトは、博士後期課程の学生をリサーチ・アシスタントとして採用し経済的に支援することで、**博士論文の早期提出や内容の充実**、さらには**学生の研究環境の充実**や若手研究者としての**研究遂行能力の育成**を図ることを目的としている。2014年からは、**アウトリーチ活動**の一環として研究成果をポスターにまとめ一般公開する。(2015年4月 附属図書館渡り廊下にて公開予定)

採用実績 2011年：10名 2012年：9名 2013年：18名 2014年：22名

社会との連携支援

連携の事例

本研究科の研究は、多くの研究者や学生が、地域住民や自治体等と協働しながら、**地域の文化活動の活性化や課題解決**に貢献している。これらにも、本研究科の「院生旅費支援」が活用され、研究科として積極的に連携を後押ししている。



海外の研究機関との連携

本研究科では、2004年より海外の大学との交流協定締結を推進し、教員による学術交流はもとより、若手研究者の海外派遣を積極的に進め、海外の研究拠点との連携を深めてきた。2014年度からは、「**国際交流室**」を新たに設置しサポート体制の強化を図っている。現在、部局間交流協定校は10大学となり、さらに複数の大学と交渉を重ねているが、今後はSIやLSの制度を利用し、研究および教育の両面において、相互交流および連携の強化を計画している。若手研究者向けには以下の支援を行っている。

- 本研究科独自の**国際交流推進プロジェクト**による**学生海外派遣**への補助
- **大型プロジェクトとの連携**

<大学院教育改革支援プログラム> <魅力ある大学院教育イニシアティブ> <21世紀COE心の文化・生態学的基盤に関する研究拠点> <グローバルCOE心の社会性に関する教育研究拠点> <組織的な若手研究者等海外派遣プログラム> <卓越した大学院拠点形成支援補助金の社会・生態学的基盤に関する教育研究拠点(SEFM)>

キャリアパス形成に向けての支援

「申請書の書き方セミナー」

○学振特別研究員申請書編 ○科研費申請編

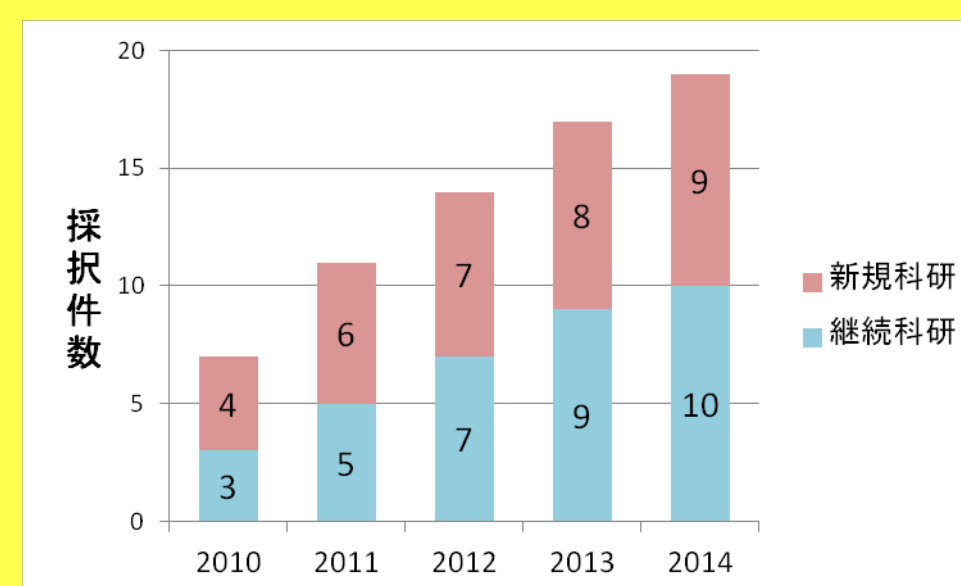
学振特別研究員および科研費等外部資金への申請を支援するために、毎年、申請書の書き方セミナーを開催している。このセミナーでは、人文系領域への申請に向けたアドバイスを受けることができ、さらに院生としての研究の進め方、研究者としての心構えなど、幅広い話題を提供している。



学振セミナー受講者 2011年：47名 2012年：30名 2013年：63名 2014年：60名
科研費セミナー受講者 2010年：30名 2011年：13名

<若手研究者の科研費採択状況>

毎年着実に増えてきており、申請についてのアドバイスが年度を超えて浸透しているのが伺える。



学振特別研究員については、毎年コンスタントに採択されている。今後も引き続きセミナー等の支援を行う予定。



「若手研究者支援セミナー」

○学術図書出版編 ○アカデミックキャリア編

若手研究者のキャリアパス形成のための支援としてセミナーを開催している。学術図書出版では、研究書を出版するために何をすべきかなど、豊富な経験をもつ教員や出版編集者からアドバイスをしている。アカデミックキャリア編では、アカデミックポストに就いた若手研究者の体験談をおして、研究の姿勢、自己アピールの仕方、支援制度の利用など、かなり踏み込んだ話題を提供している。



図書出版セミナー受講者

2014年：約60名

アカパスセミナー受講者

2014年：約40名

若手研究者の就職状況

2013年：1名デニユア採用

1名期限付き

2014年：11名デニユア採用

2名期限付き

